

日々の暮らし

■エコロジカルなまちづくりの推進

TCFD提言に基づく開示

京成グループは、温暖化や気候変動など、地球環境が脅かされている状況の中、「京成グループ理念」に定められたグループ行動指針における「環境」のもと、気候変動を私たち自身の問題としてとらえ、常に自然環境との調和に配慮し、行動しています。当社では2022年7月に、「TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言」への賛同を表明し、TCFDの枠組みを踏まえた情報開示に取り組んでいます。

ガバナンス・リスク管理

京成グループでは、法令等の遵守を確実なものとするとともに、事業継続に重大な影響を及ぼす可能性を有するリスクに組織的な対応を図ることを目的として、常勤取締役等で構成され、社長を委員長とするコンプライアンス・リスク管理委員会を当社において設置しています。コンプライアンス・リスク管理委員会では、内部監査計画並びにリスク対応に関する審議や実施結果の報告等を行っています。同委員会では、気候変動がもたらすリスク・機会についても評価し、リスク対応に向け審議しています。

戦略

京成グループの中核事業である当社の鉄道事業では、気候変動の観点から、事業継続に影響をもたらすリスク・機会を洗い出し、評価しています。鉄道事業は長期的な観点から事業運営を行う必要があるため、気候変動進行シナリオ（4℃シナリオ）と脱炭素実現シナリオ（2℃未満シナリオ）をもとにシナリオ分析を行い、2050年時点の将来のリスクや機会の影響度を評価しています。

指標・目標

京成グループは、地球環境に比較的優しい鉄道を中心とした事業を運営していますが、気候変動がもたらす様々な影響を鑑み、グループ全体で地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO₂）排出量の削減目標を以下の通り設定致しました。今後もエネルギー使用量の効率化を図り、カーボンニュートラル実現に貢献することを目指します。

京成グループCO₂排出量削減目標 2030年度までに2013年度比46%削減を目指します。
2050年度までに実質「ゼロ」（=カーボンニュートラル）を目指します。

※対象:2022年10月1日現在の当社及び連結子会社のScope1+Scope2

京成グループCO₂排出量実績と目標



リスクと機会

分類	影響度の大きいリスク・機会	リスク・機会の内容	影響度 (2050年)	発現時期	リスク低減・機会活用に向けた取り組み
物理リスク (4℃シナリオ参照)	異常気象による施設・設備・運行への影響	気候変動による異常気象の増大により、施設・設備が損壊し、運行が停止。	大	短期	・自然災害に強い鉄道施設の整備 ・沿線等の観光資源の魅力を伝えるための、積極的な情報発信
	異常気象増加による外出機会の減少	猛暑や豪雨等の異常気象により、外出する機会が減り、鉄道の旅客需要が減少。	中	長期	
	観光資源毀損による外出機会の減少	気温上昇等により、国内外の観光資源の質が低下し、空港へのアクセスを含む鉄道の旅客需要が減少。	中	長期	
移行リスク (2℃未満シナリオ参照)	温室効果ガス排出規制の強化	炭素税等のカーボンプライシングの導入・強化や、再エネ賦課金の単価上昇等により、財務負担が増加。	中	中期	・より環境性能に優れた、鉄道車両をはじめとする設備や機器の導入 ・適切な導入時期・価格を見据えた設備更新 ・グループ会社との共同発注によるコストの抑制
	次世代技術への対応	環境負荷が低い車両の導入、駅へのソーラーパネル設置等の環境負荷低減に向けた設備の導入に伴うコストが発生。	中	中期	
機会 (両方のシナリオ参照)	環境優位性が高い鉄道の利用者の増加	環境意識の向上に伴い、大量輸送が可能で環境優位性が高い鉄道を、積極的に利用する利用者が増加。	中	短期	・鉄道の環境優位性について、利用者へ積極的な情報発信 ・環境負荷が少なくエネルギー効率が高い技術の活用を推進 ・環境への取り組みについて、投資家へ積極的な情報発信
	グリーンエネルギー技術の普及	燃料電池・蓄電池等のグリーンエネルギー技術の普及により、エネルギーコスト等が低下。	中	中期	
	投資家からのESG評価の向上	先進的な気候変動対応により、ESG投資における評価が向上。	中	短期	

※ 短期: ~3年 中期: 3年~10年 長期: 10年~

日々の暮らし

▶ 各交通サービスの車両における環境性能の向上

新形式車両「3200形」導入

当社は2025年2月、新形式車両「3200形」の営業運転を開始しました。本車両は『人や環境にやさしいフレキシブルな車両』をコンセプトに、輸送需要に応じて編成両数を柔軟に変更できる設計とし、効率的な走行エネルギーの使用による環境負荷低減を実現します。



外観デザインは、当社の伝統である赤と青のカラーリングを踏襲し、長く親しんでいただけのデザインとしました。また、連結運転時に常時通り抜けが可能な構造とするため、正面貫通扉を中央に配置しています。車内設備では、当社として初めて車内非常通話装置と防犯カメラを連動させ、緊急時に乗務員が迅速に対応できる体制を整備しました。さらに、各車両に車いすスペースまたはフリースペースを設置し、バリアフリーにも配慮しています。また、最新の半導体を使用したSiC-VVVF制御装置を搭載することで、当社3500形車両と比較して電力消費量を約69%削減し、環境に配慮した次世代車両として、安全性・快適性・省エネルギー性を高いレベルで実現しています。

環境にやさしい「EVバス・タクシー」を運行

京成バスは、最新型EV大型路線バス「エルガEV」（いすゞ自動車製）2両を金町営業所に導入し、2025年3月より葛飾区内の路線で運行を開始しました。「エルガEV」は、走行時にCO₂などの温室効果ガスを排出しないほか、騒音や振動が小さいというEV車両ならではの特性を備えています。さらに、車内は段差のないフルフラット仕様で、高齢者や車いす利用者にも配慮したバリアフリー設計により、快適性を高めています。



その他のバス会社でも、EV・FCVバス計26両を導入したほか、帝都自動車交通ではEVタクシーを10両導入しました。京成グループでは、政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、引き続き脱炭素社会の実現に資する環境配慮型車両の導入を推進していきます。

▶ サステナビリティに配慮した施設・商品・サービスの企画

再生可能エネルギー由来の環境価値の活用

当社では、2023年4月より、再生可能エネルギー由来の環境価値を活用することで、スカイライナーの運行に係るCO₂排出量実質ゼロを実現しています。



これは、運行に係る電力相当について、東京電力エナジーパートナー（株）の電力供給プランを使用し、京成電鉄ちはら台太陽光発電所を含む千葉県内の再生可能エネルギー由来のトラッキング付FIT非化石証書を用いることで、スカイライナーの運行に係るCO₂排出量を実質ゼロとするものです。

また、ユアエルム京成では、より一層のCO₂排出量の削減に向けて、2024年4月よりユアエルム成田店において再生可能エネルギー由来の電力を導入しています。

※トラッキング付FIT非化石証書とは、固定買取価格制度（FIT制度）の適用を受けた電源の発電量から環境価値を取り出して証書化したものに、特定の電源種（再生可能エネルギー）や発電所所在地などの付加価値的な属性情報を紐づけたものです。

青砥駅を環境に配慮した駅にリニューアル

当社は、2025年3月に青砥駅を環境に配慮した駅としてリニューアルしました。

青砥駅ホーム上家に1,597.5m²の太陽光パネルを設置し、駅構内の電力の約20%を賄うことで年間約73tのCO₂を削減。また、青砥変電所に回生電力吸収装置を設置し、年間約557tのCO₂削減が見込まれます。展示PRスペース及び改札内天井に間伐材・古材を活用するほか、公共広場に面した地上入口に壁面緑化を実施し、気温上昇を抑え、空気の浄化の促進を図っています。



太陽光発電・照明設備の取り組み

京成電鉄ちはら台太陽光発電所や開発本部（京成くぬぎ山ビル）屋上・青砥駅屋上・高砂乗務区屋上、京成バスの営業所屋上・バス停留所、リブレ京成アルビス前原店や堀切店屋根上に太陽光発電システムを設置しています。発電した電力はスカイライナーの運行のほか、営業所や店舗等で使用しており、CO₂排出量を削減しています。なお、京成グループ各施設では電力消費量の少ないLED照明の導入も進めています。



日々の暮らし

環境にやさしい接客制服にリニューアル

関東鉄道、関鉄観光バスでは、2024年5月より鉄道現業員、自動車現業員の接客制服(夏用ボタンダウンシャツ)をリニューアルしました。

新しいボタンダウンシャツは、汗をかきやすい夏季期間に従業員が安心して職務に精励できるよう、抗ウイルス・抗菌加工を施したほか、自然環境への負荷を考慮し、納品時の包装を簡素化しています。従来の包装に使用されていたプラスチックの一部について型崩れしない最低限の紙資材に変更することで、プラスチック量を従来に比べ93%削減しています。



ゴミの削減・リサイクル

京成グループ各社では、ペーパーレス化の推進や食品トレーの回収等によりゴミの削減に努めているほか、駅やバス停のベンチにおける環境に優しい素材の利用、食品提供時における脱プラスチックの取り組み等を通じて環境負荷の軽減を図っています。

また、廃棄予定の京成グループ社員の使用済み制服を活用した繊維リサイクルボード「PANECO®」を(株)ワークスタジオと製作しました。「PANECO®」は、繊維を美しく再資源化(デザイン+リサイクルでアップサイクル)した革新的で環境に配慮したサステナブルなリサイクル素材です。2025年3月にリニューアルした青砥駅コンコース階段改札前のベンチのほか、分譲マンションやホテルの共用部に設置するテーブルに活用しました。

そのほか、建築工事や車両の更新時に生じる廃材、使用済みの乗車券やカイロ等を回収し、事務用品やグッズ等を作成するなどのリサイクルに取り組んでいます。



地域のみなさまとの取り組み

食品等の寄付の取り組みとして、水戸京成百貨店では、NPO法人「フードバンク茨城」の「きずなBOX」を館内に設置することで、お客様から寄付いただいた食品を児童養護施設等に無償で届ける活動を支援しています。また、コミュニティ京成が運営する「ファミリーマート京成八幡駅前店」及び「ファミリーマート市川妙典駅前店」では、「ファミマフードドライブ」を実施しており、ご家庭にある食べきれない食品を市川市を通じて支援が必要な方に提供しています。



その他、市川市八幡地区(当社京成八幡駅、東日本旅客鉄道(株)本八幡駅、東京都交通局本八幡駅)の鉄道3社局とNPO法人「フリースタイル市川」が協同で食品や本の寄贈を募る「フードドライブ&ブックドライブ」を実施し、地域のみなさまから寄せられた食べ物と本を子ども食堂や図書館へ寄贈しました。

廃棄ロスや食品ロス削減を目指した取り組みとして、京成リテーリングネットでは、地域の企業と連携し廃棄される農産物を使用した加工品を開発・販売しているほか、京成ホテルミラマーレでは、京成バラ園芸のいちご狩り施設で収穫されなかった希少品種のいちごを活用したスイーツを期間限定で提供しました。

その他、筑波観光鉄道では、登山道のごみを拾いながら、爽やかな空気の中で筑波山登山を楽しむ「筑波山クリーンハイク」を開催しています。

